
遊霊遊獄

リオ・レウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊霊遊獄

【Nコード】
N6686D

【作者名】
リオ・レウス

【あらすじ】
霊が見えてしまう少年「浩」と、地獄から逃げてきた訳ありっぽい浮遊霊のお話。

第一幕：出会い（前書き）

まずはじめに、

登場人物

浩^{ひろし}：昔から霊が見えてしまう少年

霊：なぜか浩の前世の霊だと自称する。地獄から逃げてきた??

よかつたら評価お願いします。

第一幕：出会い

世の中には見えないハズのモノが見える人間がいる……

浩はいつも通る通学路を歩いていた。

ふと、浩の歩が止まった。

浩には霊が見えた。昔からいろんな霊を見てきた。

だがこんな霊は初めてだよ？

(……こんな……何で俺がいんの？)

浩の視線の先には自分と同じ姿の霊がいた。

……ふと、その霊が浩の視線に気づいてこちらを向いた。

「あー！発見！！俺の相棒！！」

気がつくがいなや、霊は叫びながら走ってきた…と言っよりすべってきた。

その霊はそのまま浩の背後に滑り込みちよこんと座った。

「これからどこまでもついて行くから！！ヨロシク！！」

霊はニコニコしている。

憑かれた…完全に取り憑かれた…

ヤヴァイ……こんなの初めてだよ……

第一幕・出会い（後書き）

よかったら評価お願いします

第二幕：正体

キンコンカコンコン…

チャイムが鳴った。

時は3時間目

浩はずっと霊を観察してきた。

が、霊は何も言わずに黙ったままニコニコしていて、何かをする気配はない。

「え〜xがyでyがaだからxがaでaはyでつまりは $x=y$ 」
aなわけですよね??分かりますか??」

また数学の竹田先生のわかりづらい説明が始まった。

もつとわかりやすく説明できないのか…全く…

…とその時、いきなり霊が口を開いた。

「さあ、俺は何で君の相棒になったでしょうか??これ問題ね??」

(………知るか!!だいたい何でこいつ??もつと美人なお姉さんの霊とかさ、いろいろあんだろ??これじゃ 夢も花もないお話になっちゃうじゃんかよ!!どうしてくれんだよ!!?この浮遊霊!!!)

浩は心の中で愚痴りまくってみた。

そしていつも不真面目な浩だがなぜかまじめくんっぽい雰囲気でした。

（俺には勉強しかないんじゃないじゃあ！！勉強……）

ああ、浩は気が狂ったか、いや、ちょっと取り乱しているだけだ。

「勉強なんていつつもしてねーだろ！？それより俺の質問答えろっつー！！」

今度は霊もキレてきた。

（うつせーな！！授業に集中できないじゃんかよ！！何で問題？？もっとほかに話すことあんだろ？？）

すると霊は浩の心の声に答えるように話題を変えた。

「実は俺、君の前世の霊だよ？？」

「え？？」

浩は思わず声に出してしまった。

第三幕：ワケ

霊は話を続けた。

「普通生まれ変わると、前世の霊が生まれ変わりの肉体に入るんだけど、どーゆーことが、俺は入れなかったんだよ…あんたの肉体に、ね…」

（マジかよ～～？？じゃあ俺はこれからこの霊に肉体乗っ取られんのかあ？やだな～～マジかよ～～痛いのかな？？………つかこれ理科の教科書じゃん！？）

急いで数学の教科書に取り替える浩を横目に霊は話を続けた。

「そんで、入る肉体がないからそこらを放浪してたワケ…そしたら閻魔のヤロオ、俺を地獄

に叩き込もうとしやがった…霊は理由がないと下界にいられないから、生まれ変わりのアンタに憑くしかないんだよ…」

（まじかよ～～…そりゃないよ～～…何で俺？？…）

浩は数学の教科書に落書きをしながら心の中で疑問を連呼した。

「俺さ、まだ下界に用があつてまだ地獄に行けないんだよ………訳ありってこと！！わかった？？分かったら返事！！」

（しゃべれねーっつの！！授業中だぞ？？周りから見えて一人でしゃべってるように見えちゃうじゃんかよ…全く、こいつの頭は空か？？？……あ、霊だった）

そんなことを思いながら浩は前席の人に消しかすを投げ始めた。

「あ、言い忘れてたけどアンタの心の声、全部聞こえてるから!!
そこんとこヨロシク!!」

(うぜえ…マジこの靈ウザイ…肝心なことを話すタイミングが遅すぎる……!!)

「あ、そういえば、もう一つ、忘れてることあった!!」

第四幕：願い（前書き）

やっとここまで書いたあ！！

まだまだ書く（と思う）ので応援ヨロ

第四幕：願い

「も一つ、言い忘れてたことがあった!!」

霊が言い忘れていたことは!?!? なんかかなり重要なことの予感!!

「実は俺、どんな願いごとでも一つだけ叶えられんだよ!!」

(え!?! マジでえ?!? 最高じゃん!!)

浩の欲望が胸の中で激しく渦巻いた。

「ただし!! 大きな代価が伴う!!」

(なんだよそれ?!? 何が必要なの?!?)

「ズバリ!! アンタの肉体!! と命!!」

(……………え!?!)

「肉体はそのまんまの意味!! 肉体を俺に渡す…ってこと。で、命
つてのはつまり…魂!?!? つての?!? 俺は肉体を持たない 魂だけ
の存在…だからこの願いを使うと霊にもなれずにこの世から、い
や、あの世からも完全に消滅するってこと。」

(え?!?! ……それって意味なくね?!?)

「まあ、ある意味では幸せだよ!?! 地獄は辛いから…まあ生まれ
変われなくなるけど…」

キンコンカコンコン

ちょうどチャイムが鳴った。

「ほかにも話したいこといっぱいあるよ?。」

霊は延々と話をし続けた…

キンコンカコンコン

時がたつのは早い。

早くももう学校が終わってしまった。

浩、ただいま下校中

霊はあの後もずっとしゃべり続けていた。…5時間目の終わり頃まで……

まあ浩は頭が悪いから半分も覚えていないが、まあとにかく死んでからの世界とか、地獄での罪の償いとか、そんなことを話してもらった……らしい……

(魂と肉体を引き替えに願いを一つ…か…どゆこと願えばいいんだ???)

浩は家に帰ってからずっと、そのことを考えていた。

第五幕：地獄友達

翌日、浩は目覚めた。

7：20。親はもう仕事に出かけている。

……………声がする。

「ぎゃははははは！！！！みんなくんの！？ははははは！！！！イイよ？」

見ると居間で浩の前世の霊（自称）がなにやら話している。

「何やってんだよ！？朝っぱらからうつせーんだよ」

浩は怒鳴った。

霊はうれしそうに無線で誰かと話していた…そして不適な笑みを浮かべ、こっちをじろじろ見ている。

「……………なんだよ…キモチわりーな見てんじゃねーよ……………」

浩が少し気味悪そうに言うと…

「俺の地獄友達が今日の午後、下界（じがい）に来るって！！」

「……………ハアア！？地獄友達い？？」

「そう、俺の霊仲間サ 地獄から逃げてくるらしいから！！下界（じがい）に

……楽しみにしててね)

(おれいつたいどうなってんの?? 何で浮遊霊と一緒に住まなきゃならん!?)

2時間目、浩は 理科のノートに落書きをしながら心の中でつぶやいた。

(全く…なんて俺はついてないんだ……)

「憑いてるじゃん!!俺が!!」

(あ、心の声聞かれてるんだった!!ウツゼエ!!なんかシャレっぽく言ったトコがまたウゼエよ……あ……も……ヤダ、俺の人生終わった……)

すかさず霊が口をはさむ。

「ちなみに俺の人生は終わってます……もう死んでますからあ……ギヤハハハハハ!!」

妙にテンション高いなオイ!!と浩は心の中で思った。

(とにかく今日は家に帰りたくねえ……)

「俺は早く帰ってえ……」

またまた霊が横から口をはさむ。

(うつせよ!!もうメンドい!!すべてが!!!)

そう言って浩は落書きに全神経を集中するのだった……。

第六幕：マジで！？

そして放課後。

浩は何となく放課後の補習授業を受けに行った。

まあ補習授業といえまじめくんが行くようなところだ。

さすがの浩も一人じゃ心細いので、親友の剛たけるを誘って行っ

……まあ家に帰りたくないだけなのだが……

「お前が補習なんてめずらしいじゃん？？氷柱ついででも降るんじゃない？
」

すごい言われようだ……

「相当素行が悪いんだな！！ハハハハッ！！愉快愉快！！」

霊がわざとらしくわめく。

「まあ今日は勉強がしたいなあ……なんて思っ

てね、俺にもあせり
みたいなのが出てきたワケよ」

霊を無視して浩は親友とのおしゃべりを続けた。
「ヤッベー！！マジで何か起こるんじゃないか？
槍でも降ってくん
じゃね！？？ってかお前ホントに浩かよ！？」

（ホントすごい言われようだな…俺ってそんなにふだん不真面目か！？？俺ってそこまで悪く思われてんの？？）

なんて会話をしながら補修授業が行われる視聴覚室へ向かった。

すると視聴覚室の方向から悲鳴が…！！

「キヤアアアアア！！」

「な、なんだ！？」

「行ってみようぜ！？」

そういつて剛が勢いよく視聴覚室に向かって走り出す。

「ま、待てよ！！」

あわてて浩も後を追う

ガラガラガラ！！

浩が勢いよく扉を開ける。

「……………ギヤアアアアア！！なんだあれは！！！！」

そこには見たこともない生き物がいた…！！

第七幕：緊急事態！！

視聴覚室の扉を勢いよく開ける！！

ガラガラガラ！！

（な、なんだこれは！？）

浩は驚愕した。

そこには恐ろしい外見の怪物がいた。

その怪物には、

頭からとげが生え、

背中からもとげが生え、

手足からもとげが生え、

そして腹には…またとげが生え、

尻尾には…まあ全身とげだらけの怪物がいたのだった。

「なにこれ？？でかいウニ！？」

剛が言う。

（どれだけ認めたくないんだよ…この怪物を…）

そのとき、

「キヤー！！助けてえ！！」

見ると怪物は浩の好きな女の子、楓^{かえで}を束縛していた。

「助けてえ！！誰か！！とげが痛いのお～～！！」

彼女は必死で叫んでいる。

「大変だ！！早く助けないと！！」

…と剛が叫ぶ。

（そうだ！！早く楓ちゃんを助けないと…楓ちゃんが危ない！！）

浩も必死で助ける手段を考える。

（うっん……真っ向から当たっても勝てそうにないし…）

すると霊が浩に耳打ちした。

「あのさ、願い使っちゃえば？？もうそれしかないよ！？早くしないと楓ちゃんが危ないよ？早く俺に肉体よこしちゃいなよ！！」

霊はなぜか朝のような不適な笑みを浮かべていた。

（そうだな…確かに俺が消えて楓ちゃんが助かるなら…）

「助けてえ！！このとげとげ、チクチクして地味に痛いのお～～！
助けてえ！！」

(……………・……………)

(……………コレ、助けなくてダイジョブじゃね！？……………)

浩がそんなことを思った瞬間、剛が勢いよく怪物に向かってつっこんだ。

「このヤロオ！！俺がぶっ飛ばしてやる！！！！！」

第八幕：恋なんかしてる場合じゃない！！

「このヤロオ！！俺がぶっ飛ばしてやる！！！」

言うがいなや、剛は怪物に向かって突っ込んだ。

するとかすかに、怪物から声がした。

「ヤツベ…こんなの聞いてねーぞ！？浩つつうヤツだけじゃないのかよ？雄誠ゆうせいのヤツ、だましたな！！」

（え！？なに、俺！？雄誠ゆうせいでだれ！？）

「ウオリヤアアア！！死ねええい！！」

剛には聞こえていないようだ。

「ダイジョーブ。俺ら仮にも霊体だから消えればいいじゃん！！」

（え？？霊？霊て？？…）

「消えるぞ！！せーの！！」

スカッ…

剛の拳が怪物に当たる寸前、怪物は跡形もなく消えた。

ドサッ…

楓が怪物の束縛から解き放たれる。

（なんだったんだ??あの怪物…?）

そう疑問に思いながらも浩は正直、剛の行動に感心していた。

浩では、絶対にできない行為である。

「剛くん、ありがとう…」

「いや、…その…当然のことをしたまでさ!」

何か、はつきりと剛と楓の周りにピンクのオーラが見える。

（ヤッベ、あの二人いい感じになってきてね!?最初、「楓」は浩の好きな女子って説明されたよね!?早くも関係危うし!?コレって取り返さなきゃなんのか?全面戦争か??）

浩が剛との全面戦争を覚悟したそのとき、浩はあることに気づいた。

（霊がない!!あいつ、どこ行っただ!?）

浩は一瞬考えをめぐらせた。

ピキーン!!

浩の頭をとんでもない考えがよぎった。

（まさか…アイツ!! …と言うことは、あの怪物の正体は…
…）

浩は視聴覚室を勢いよく飛び出した。

「なんだ？浩のヤツ、どうしたんだ？？」

剛と楓は視聴覚室に二人取り残された。

第九幕：霊の陰謀！？

浩はとかく急いだ。

視聴覚室の周りを調べた。

そして、視聴覚室を飛び出して12〜3秒後、浩は準備室の前で足を止めた。

中からかすかに声がする。

「うつせ〜……そ……てい……なんだよ……」

浩はしずかにドアを開けた。

「ダカラ、俺も想定してなかったんだって……！まさか浩に友達^{アイツ}いるなんて……ひとりぼっちだと思ってたんだよ」

……その声は浩に憑く霊の声だった。

「うるせえ、お前に呼ばれたから、はるばる地獄から来てやったんだぞ！？言い訳すんなよ！」

「そつだよ……！雄誠^{ゆうせい}はいつもそつだ。小さい頃から……」

（雄誠！？また出てきた、誰だ？重要人物登場か！？）

浩は物陰で必死に耳をすました。

（3人！？いや、4人いる！？例の地獄友達なのか？？）

浩は物陰の隙間から声の主を確認した。

4人の少年が輪になって座っていた。

もちろん浩に憑いている霊もいっしょだ。

その誰もが白く、透けている。

（ 全員霊体が… ）

浩は自分の考えが正しいことを悟った。

（雄誠ってヤツは俺に憑いてる霊の名前だ！！間違いない…そしてあの怪物の正体は例の地獄友達とかいうヤツが擬態してたんだ！！）

浩がさらに霊達に近づこうとしたとき…

「盗み聞きなんてよくねえな！！出てこいよ！！俺をなめんなよ！！」

雄誠がいきなり叫んだ。

（まずい！！見つかったか！？）

なんだか波乱の予感！？

第十幕：仮面の霊

「そこにいるのは分かってるんだ！早く出てこい！」

雄誠が大声で言う。

（しょうがない…観念するか…）

浩が資料棚うらから出ようとした…そのとき…！

雄誠の後側に赤い稲妻が走った。

「よくぞ見破った。さすがは雄誠、と言ったところか……」

そこには不気味な仮面をかぶった人物（？）が立っていた。しかも3センチくらい浮いてる。

「やはりお前か…俺を地獄へ連れ戻すよう閻魔に命令されたのか！？」

雄誠が言う。

「お前を連れて戻りたいところだが、あいにく、今日の任務はお前じゃない。」

その仮面の霊は例の地獄友達を指さした。

「その浮遊霊どもを連行しに来た。第八地獄監獄脱走により、神妙にお縄についてもらおう…！」

仮面の霊はしずかに言い放った。

地獄友達はひどくおびえている様子だ。

（つてか、見つかったたの、俺じゃないのかよ…マジびっくりさせんなよ）

浩が内心そう思ったとき、不意に雄誠が口を開いた。

「あと、浩、さっきから気になってたんだけど、何で隠れてんの???出てこいよ」

（…気づかれてた〜!!マジかよ〜?気づいてたのかよ…）

結局意味ないじゃん…と言うことで、浩は物陰から出てしみじみ見物することにした。

「そうはさせないぜ?こいつらは俺が呼んだんだ!!こいつらに責任はない!!」

（結構人情深いな…アイツ…ちょっと見直したよ……）

浩は感心した。が、次の瞬間!!

ババババババツ!!

なんのまえぶれもなく、いきなり仮面の霊の手から稲妻が走る。

稲妻はそのまま雄誠を貫いた。

「グッ！！なんてヤロオだ……プライドだけじゃなく、人の心まで捨てたか！？」

雄誠が仮面の霊に向かってつぶやく。

「ハッ！人の心！？そんなの知ったことか！俺はもう死んでいる！今はこうして閻魔の元に仕えている！そこに人の心が必要か！？お前は昔から甘いんだよ！」

そういつと仮面の霊は、また手から稲妻を出した。今度は地獄友達に向けて……

「ギヤアアア！！やめろお！地獄はヤダア！現世がいいんじゃないあ！！」

地獄友達の抵抗もむなしく、仮面の霊から放たれた稲妻で束縛されて彼らは連行されていった。

「次は我が身と思え」

そう言いのこして仮面の霊は姿を消した。

第11幕：久しぶりの普通登校

え???あの後どうなったかって??

あ後は特に何もなくて一日が終わったよ??

普通に帰って普通に飯食って普通に風呂入って普通に雄誠アイツと寝た。

……まあ幽霊と寝る時点で普通ではないのかもしれんけど……

え!?あのあと雄誠アイツはどうしてるかって??

ダイジョーブ!!地獄友達の件はすっかり忘れてるから(?)。

でもオレが雄誠アイツを怒ったからアイツちょっとしよげてる。

あ、もう学校の時間じゃん!!

「いってきまゝす!!」

そう言っただけで家は出た。

雄誠(霊ね)はまだ家でしよげている。

(しめた!!今日はゆっくりできるぞ!!ヒヒヒヒ!!)

浩は心の中で雄誠をあざ笑った。

そいえば、あの地獄友達事件から3日、新しい発見をした。

一、アイツ、常にオレの肉体ねらってるッてこと……あれには内心びっくりした。

俺の体乗っ取ろうなんていい度胸してんじゃねーかよアイツ……

二、アイツは基本的に壁でも床でも天井でも何でもすり抜けられるけど、すり抜けられないモノとかあるらしいッてこと。

カビの生えたパンとか、公衆トイレの壁とか、汚い菌類が張り付いてそんな物体はダメらしい……あとアルミホイルもダメだったな……

今度あんな事したら雄誠アイツをホイル焼きにしてくれようぞ！！

まあそんなこんなで学校に向かってるんだけど、アイツいないと……

ヒマダナア~~~~~！！

第11幕：久しぶりの普通登校（後書き）

ヒマダナア〜〜！！（作者）

第十二幕：ハメられたか…

「おっはよ〜!!」

学校についた浩。

（ヤッベ……暇すぎて死にそんな登校だった……普通の登校ってこんなに疲れたっけ??）

カバンを片付けて席に着く。

ふと、隣からピンクのオ〜ラが……!!

「あ。」

楓と剛が楽しそうに会話している。

ものすごいオ〜ラを放ちながら……

（あ、もう俺のつけいる隙ねえ……）

浩は確信してしまった。

（ヤベエ……俺の人間関係、ズタズタじゃね??なんか、三角関係っぽいのできてるよね!??）

そんなことを考えている浩の耳にささやき声が……

「だからさあ、俺と取引して願い叶えればいいじゃん!??もうソレ

しかないじゃん!」

(そうか…もうソレしかないよな……お前と取引するしか……ん?
?)

浩がふり向く。

…… あぶねえ、雄誠アイツがいた。……いつのまに來たんだよ。

「なんのつもりだテメエ、ホイル焼きにすんぞ?」

浩が素っ気なく脅す。

あぶねえ、ホントあぶねえ。気づかぬうちに取引するトコだった
よ……

「ほ、ホイル巻きにしてカビ菌の海原に放り捨てるだって!??」

(え??誰もそんなこと言ってないじゃん……あ、こっちのセリフ
の方がいいや、採用)

雄誠にはこの声も聞こえているはずなのに、雄誠アイツはなぜか不適な笑
みを浮かべている。

あやしい……

…とその時、剛が話しかけてきた。

「明後日、肝試し行かねえ??」

「へ？」

「楓と権一も一緒に行くんだケド……」

（今、隣に霊がいる状態の俺に恐れるモノなんてあるのか？？それにこれ、楓ちゃんを取り返すチャンスじゃん！！）

そう考えた浩は瞬時に決断を下した。

「行く行く！！俺、明後日ちょうど暇だったんだよ」

（オッシャ！！約束完了！！これで明後日……）

……が、浩は答えてから、あることに気づいた。

ニヤケている……雄誠がまた、不適な笑みを浮かべている。

（…… またもやハメられたか……雄誠に……）

浩はひどく後悔した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6686d/>

遊霊遊獄

2010年10月9日23時21分発行